

平成 23 年度家庭科教育にかかわる現状と課題

部長 大野美恵子

1 家庭科教育の動向

(1) 各地区の活動の概要

各地区とも、新学習指導要領を踏まえ、「家庭生活を大切にしている心情」や「生活をよりよくしようとする実践的な態度」の育成を目指した授業研究や指導資料作り、実技研修等を行った。

(2) 各地区の実践

【上越地区】

上越市教育研究協議会では「児童生徒が生活の自立を目指し、進んで実践する態度をはぐくむ支援の工夫」をテーマに、上越市立山部小学校において公開授業を行った。5・6年複式学級担任 市村菜穂子教諭とゲストティーチャーによる30分で1食分のお弁当を作る調理実習であった。小・中・高・特別支援学校の教諭とJA職員が参観した。協議会では、発達段階に応じた授業の在り方や児童生徒の自立を促す支援について話し合われた。

【中越地区】

燕市・西蒲原郡小学校教育研究会では「実践意欲を高める家庭科指導の工夫」をテーマに、燕市立分水北小学校 足立敦子教諭が公開授業を行った。「できる仕事から始めよう：針と糸を使って～ICTとボランティアを活用した授業実践～」で、ICTを効果的に使い、大きな画像を見ることで技能の習熟を図った。また、小物作りという完成品を目指すまでの技能習得の過程が、児童の実践意欲を高めることも明らかになった。

【下越地区】

村上市小学校教育研究会では「新指導要領の趣旨に沿った家庭科授業の在り方」をテーマに、関川村立関川小学校 宮地聡子教諭が単元を通して栄養主査との連携を図りながら、「まかせて！栄養バランス満点の食事作り～家族に喜んでもらえる食事作りを目指して～」の提案授業を行った。家族へのインタビューや食事調べなど、学校での学習と家庭での実践をつなぐ手立てについて学び合った。

五泉市小学校教育研究会では「研修や実践で学び得たことを授業に活かす」をテーマに、五泉市立五泉南小学校 佐藤佑子教諭が「つくろう！さわやかな生活」の授業を公開した。2枚のTシャツをニヒドリン水溶液につけて見えない汚れを可視化する実験から、児童に衣服の手入れの必要性を感じさせることができ、深い学びにつながった。

【新潟地区】

新潟市小学校教育研究会では「学びを生かし、家庭とつながる生活を創り出す子どもを目指して」をテーマに、新潟市立葛塚東小学校 伊藤千絵教諭が「工夫しようさわやかな生活」の提案授業を行った。住居・衣服だけでなく、食事とも関連付けて、季節に応じた住まい方を工夫したワークシートに書かせることで、快適なくらしについての児童の考えを深めさせた。

2 家庭科教育の課題

家庭科は生きる力そのものを育む教科である。これからも家庭との連携を密にしながらか実践的・体験的な授業のあり方を探り、よりよい生活を送るための実践力を身に付けさせていきたい。